パラソル

くにたち男女平等参画ステーション

Vol. 10

2023 Feb.

国立市 PRIDE指標2022で
ゴールド認定＆レインボー認定受賞… p.4
みんなで集おう「ふらっと！しゃべり場」… p.5
地域の活動「くにたち映画祭実行委員会」… p.6
本の紹介・Wリボンキャンペーン… p.7
出前講座・相談のご案内など… p.8

くにたち男女平等参画ステーション・パラソル情報誌

3月8日は国際女性デー「ミモザウィークくにたち」開催

3月8日の（水）国際女性デーに合わせ、パラソルではこの日のシンボル・ミモザの花をモチーフに、様々なイベント・講座・展示を開催予定です。旧国立駅舎では3/1～3/8に展示を実施しますのでぜひお立ち寄りください。詳しくはパラソルHPで随時お知らせします。

出前講座のご案内

●男女平等参画講座
男女平等参画社会とはどういう社会なのか。性別による固定的な役割分担意識から、女性、男性、それぞれの生きづらさについて考えます。

●ドメスティックバイオレンス予防講座
DV（配偶者からの暴力）の現状や取り組みに関する正しい知識を身に着け、「DVをしない、させない、見逃さない」大切さについて学びます。

●デートDV予防講座
デートDV（交際相手からの暴力）について知り、被害者にも加害者にもならないために、お互いを尊重するコミュニケーションを学びます。

●性の多様性・LGBTQ・SOGI（ソジ）講座など
自分らしくあるとは？ 性の多様性を、じぶんごととして捉え、誰もが自分らしく生きられる社会の構築に向けて、一人ひとりが自分にできることを考えます。

上記以外もご要望により対応いたします。ぜひご相談ください。
【対　象】企業、学校、地域グループなど概ね10名以上
【会　場】国立市内
【時　間】60分～90分（ご希望により調整いたします）
【費　用】無料　※資料代をご負担いただく場合があります。
【申　込】開催希望日の1か月前までにお申し込みください。
申込用紙はパラソルHPからダウンロードできます。

相談のご案内

家庭、ハラスメント、仕事、人間関係など……「こんなこと、どこに相談したらいいんだろう？」と思われたらまずはご相談ください。
相談員による日々のご相談と、弁護士や専門家による相談を、曜日ごとに行っております。
プライバシーは必ず守りますので、安心してお問合せ下さい。

生きかた相談室（1人50分）
［水曜以外の平日］10時～18時
［土日祝］ 9時～16時
（専門相談の時間を除く）

SOGI（ソジ）相談（1人50分）
［第2火曜］16時～18時
［第4日曜］14時～16時

みらいのたね相談（1人50分）
［月1回／日祝］10時～12時
（2/23、3/21。4月以降はHPなどでお知らせします）

悩みごと相談（1人50分）
［第3火曜］11時～15時30分

法律相談（1人30分）
［第2・4土曜］13時30分～16時

相談 TEL 042-501-6996
予約 TEL 042-501-6990

専門相談は
予約制・無料

今年度より水曜日が休館日になりました。ご注意ください

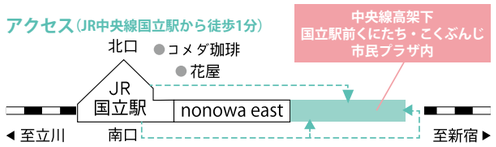
パラソル
くにたち男女平等参画ステーション

くにたち男女平等参画ステーション・パラソル情報誌　vol.10　2023年2月発行
［発　行］国立市　　［企画制作］くにたち男女平等参画ステーション・パラソル
［編　集・デザイン］株式会社シーズプレイス

＊テキスト・画像の無断転写、転載を固く禁じます。

お問い合わせ
〒186-0001 東京都国立市北1-14-1 国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ内
TEL 042-501-6990　FAX 042-501-6991　info@kuni-sta.com
https://kuni-sta.com
kunista　kuni_sta　kunitachi_sta
HP

アクセス（JR中央線国立駅から徒歩1分）



アライウィークくにたち

2022年12月3日（土）～12日（月）

セクシュアル・マイノリティ当事者に対して理解し、支援する人を意味する「アライ」。
英語で「同盟」「支援」を意味する、「ALLY（アライ）」という言葉が語源となっています。
アライに共感をしつつ、具体的にどのような行動をすればいいのか、
何をもって「自分はアライ」と言えるのか。そんな悩みを抱いたことのある方は少なくないかもしれません。
そこで今回、パラソルでは「アライ」についてもっと知って考えるため、
2022年12月3日（土）～12日（月）の「アライウィークくにたち」期間に、さまざまな講座やイベントを行いました。
さらに12月3日（土）には、認定NPO法人ReBit（リビット）と一橋大学プライドフォーラムとの共催で、
「アライって何だろう？～誰もが暮らしやすい街をいっしょに考えよう～」というイベントを開催しました。
行われた各講座やイベントの内容をご紹介します。

12月3日（土）13:30～15:30
@くにたち・こくぶんじ市民プラザ・オープンスペース

アライって何だろう？
～誰もが暮らしやすい街をいっしょに考えよう～

今回登壇したのは、ReBit代表理事の薬師実芳さん、ファシリテーターにReBit事務局長の中島潤さん、一橋大学教授の太田美幸さん、パラソル制作チームです。

薬師さんは「LGBTQ」や「SOGI」といった基本的な言葉に関する説明をした後、研修事業やキャリア支援などRebitの実践について説明してくれました。

太田さんは、一橋大学でジェンダーとセクシュアリティについて学べる講義を展開する他、より深く学びたい学生に向けて文献・教材を利用できるようにする「Pride Forum Resource Center（リソースセンター）」の運営も行っています。イベント当日は、ジェンダーについて関心の少ない学生たちに向けた講義での経験と学びについて紹介してくれました。

パラソル制作チームは、パラソルのオリジナルパネルやウィンドウ展示、動画、リーフレット制作などを担っているチームです。イベントでは展示物を作るプロセスに加えて、どのような工夫をしているか、どんなことに配慮しているかなどを紹介しました。

それぞれの取り組みについて紹介後、参加者の皆さまからいただいた質問をもとに、「アライ」について議論を深めました。イベント後に記載してもらったアンケートでは感想として、**「障害や精神疾患を持つ人にもアライという言葉を使えることを初めて知った」「学びを深めて、これからもアライで居続けたい」**といった声が寄せられています。また、

「アライとは、考え続けること。
アライとは、考えることをさぼらないこと。
いつか、アライという言葉がなくなり、アライであることが当たり前の社会になること。」そんな感想もいただきました。

アライに一つの正解はありません。一緒に考えながら、自分なりの在り方について見つけていきましょう。パラソルでは電話や面談による「生き方相談」（毎週水曜日は定休日）を受け付けていますし、毎月『ふらっと！しゃべり場』という誰でも参加できるイベントを開催しています。ぜひお気軽にご参加ください。

一橋大学 HITOTSUBASHI UNIVERSITY × ReBit × パラソル くにたち男女平等参画ステーション

一橋プライドフォーラム
太田美幸氏（一橋大学教授）

認定NPO法人ReBit
薬師実芳氏（右）・中島潤氏（左）

パラソル 制作チーム
（3名）

12月3日（土）～12日（月）

ウィンドウ展示

「アライウィークくにたち」や国立市のPRIDE指標受賞に協力・尽力された方々や、これまでパラソルとともに活動してくださった方、パラソルにメッセージをお寄せ頂いたみなさまの言葉を展示しました。中央にいるのはパラソルのオリジナルキャラクター「クニコーン」。

12月10日（土）
国立市公民館講座

同性カップルと一緒に考えるLGBTQ+
～アライにできること～

レインボーソルト

今回の講座の講師で「結婚の自由をすべての人に訴訟」（同性婚訴訟）の原告でもある大江千束さん、小川葉子さんに、裁判のこと、今の思いなどお話を聞かせていただきました。

「二人だけだったら、耐えられなかったかもしれない。ともに戦う仲間、当事者、そしてアライの人達からの応援があったからできたこと。」

「結婚はしても、しなくてもいい。でも結婚を選択できない人がいるということを変えたい。」というお話に、参加したみなさんが真剣に耳を傾けていました。

後半はレインボーソルト作り。みんなで色をつけたソルトを楽しく詰めて完成。最後にレインボーメッセージを書きました。

12月3日（土）～12日（月）

トランスジェンダーのリアル展

パネルデータ提供
「トランスジェンダーのリアル」製作委員会

「私たちはすでに皆さんと一緒に生きています」

トランスジェンダーの実際の姿を知ってもらうために、当事者たちがつくった冊子（下）のデータを提供いただき、パネル化して展示しました。冊子はパラソルでも配布しています。

▲「アライウィークくにたち」で4度目の展示。写真は12月3日（土）ReBit中島さん。

8月から各所で開催

▲冊子「トランスジェンダーのリアル」

▲8月に初展示

9月は旧国立駅舎にて（上）▶
10月にはグランデュオ立川（下）で展示を行い、多くの反響をいただきました。

12月12日（月）**@一橋大学 西キャンパス**
一橋大学社会学部公開講座

LGBTQからダイバーシティ&インクルージョンを考える

一橋大学社会学部の開講科目「ジェンダー／セクシュアリティとライフデザイン」にて、認定NPO法人ReBitとスターバックスの出張授業を公開講座として行いました。

●参加者の声　一般の参加者もあり、大学、地域、民間がつながるいい場だったと思います。このような場所が増えるといいですね。来年も参加したいです。

国立市がPRIDE指標2022で work with Pride ゴールド認定&レインボー認定を受賞しました！

2022年11月、国立市は、LGBTQ＋などのセクシュアル・マイノリティへの取組みの評価指標として、任意団体work with Prideが策定する「PRIDE指標2022」において、**「ゴールド」と「レインボー」を自治体として全国初受賞**しました。「PRIDE指標」とは、任意団体work with Pride がLGBTQ＋の働きやすい職場づくりを目指し、2016年に日本で初めて策定した、企業・団体などの取り組みを評価する指標です。指標は5つの評価指標＝**Policy（行動宣言）、Representation（当事者コミュニティ）、Inspiration（啓発活動）、Development（人事制度・プログラム）、Engagement・Empowerment（社会貢献・渉外活動）**で構成。「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の三段階で評価され、ゴールドは最高評価。 また、**「ゴールド」認定のうち国・自治体・学術機関・NPO、NGOなどとのセクターを超えた協働を推進する企業・団体など**を「レインボー」として認定しています。

ゴールド認定
（318社）

評価項目の達成状況によりゴールド、シルバー、ブロンズ認定がある。ゴールドは最高評価。

LGBTQ＋に関する国立市の主な取組み

全国初 カミングアウトの権利及びアウティングの禁止を規定した条例の制定	職員の休暇制度について同性パートナーに適用 （結婚休暇、忌引（姻族も対象）、子どもの看護休暇、出産支援休暇、育児参加休暇等）	職員の扶養手当について同性パートナーに適用
自治体として全国初 職員の死亡退職手当について同性パートナーに適用		性別不合に係るホルモン治療や性別適合手術について職員が病気休暇を取得可能 （最大90日間有給）
職員研修の実施 研修受講バッジの着用	職員向けガイドラインの策定	東京レインボープライド2018及び2019への出展

レインボー認定
（14社）

セクターを超えた協働を推進し、社会課題の解決に取り組む企業・団体の評価。

2022年度「レインボー認定」企業・自治体

EY Japan
国立市
コカ・コーラボトラーズジャパングループ
ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ
積水ハウス株式会社
東京弁護士会
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本コカ・コーラ株式会社
野村ホールディングス株式会社
P&Gジャパン合同会社
PwC Japanグループ
ブルームバーグ・エル・ピー
三井住友信託銀行株式会社
モルガン・スタンレー

レインボー認定を受賞した取組み

国立市は「近隣8市（清瀬市、小金井市、国分寺市、多摩市、東村山市、日野市、府中市、武蔵村山市）」及び「一般社団法人にじーず」と連携し、若年層セクシュアル・マイノリティ支援事業を実施。

◀23歳以下のセクシュアル・マイノリティ当事者(かもしれないと認識している方を含む)が交流できる「居場所」（にじーず多摩）の定期開催（画像は「にじーず多摩」ちらしの一部画像）。

Business for Marriage Equality（結婚の平等に関するキャンペーン）にメッセージを寄せる国立市永見市長。「婚姻の平等に賛同します」▶

Photographed by LESLIE KEE

▲多様な性に関する学校への出張授業・研修の実施

みんなで集おう ふらっと！しゃべり場

パラソルでは、2022年9月より「ふらっと！しゃべり場」を始めました。「ふらっと！しゃべり場」は身近にあるジェンダーや生きかたなど、モヤモヤを話せる、誰でも交流会です。

- 日　時：毎月第１土曜日
  他にも不定期で開催します。
- 場　所：くにたち・こくぶんじ市民プラザ
- 申込み：不要

今までのテーマ
- 9月　ジェンダーギャップ116位の日本どう思う?
- 10月 なかなか話せない!? ジェンダーのことを話したい!
- 11月 NO って言えてる?
- 12月 もっと話したい! アライのこと
- 1月　モテって何だろう? それって何のため?
- 2月　空気 読めない or 読みすぎる～じゃあどうすればいい!?～

誰かの話を聞いてみたい！

答えはないけど話したい!!

ふらっと、遊びにきてね。

安心・安全な場所をみんなで作り上げよう！

ルールに基づいて開催しているよ。

参加者の感想
- 時間が短く感じるほど、話したいことが皆さんたくさんあるのだと感じました。
- 自分の意見や他人の意見を交わせること自体が新鮮で楽しかったし、気づきもありました。
- (参加前は)真面目な印象だったけど、当日は思っていたよりずっと明るい雰囲気で楽しかったです。
- 学生以外の方とこういった話をするのははじめてで、楽しかったです。

自分の言葉で話したいことを話す場、誰かの話を聞きたい人も。誰かに教えてもらうのではなく、自分で何かをみつける場所です。気軽な気持ちで参加してくださいね。

地域の活動 VOL.2 くにたち映画祭実行委員会 中村絵乃さん

2022年10月から12月の２ヶ月間、「くにたち映画祭2022－まちじゅうが映画館」が開催されました。市内各所で10作品が上映され、パラソルもトークイベントに協力する機会（下記参照）をいただきました。邦画洋画、往年の名画から社会派ドキュメンタリーまで幅広いラインナップによるプログラム。企画と運営はすべて市民ボランティアの手によるものと伺い、実行委員のお一人で、市内在住の中村絵乃さんに伺いました。

――「くにたち映画祭2022」はどのような活動ですか？

かつてあった映画館・国立スカラ座を復活させたいとの思いを持った映画好きが集まり、2019年に映画祭を開いたことをきっかけに始まった活動です。実行委員を募り、私を含め、大学生から70代といった職業も年齢も様々な市民メンバー15人が集まり、昨年の春から企画がスタートしました。メンバーが伝えたい、考えたいメッセージを込めて作品を選び、プログラムやチラシづくり、大量のチラシまきなど、協力し合い企画を進めました。どの回も、上映後に監督を呼んだトークや、映画にかかわるお弁当を販売したり、参加者同士で話し合ったり、様々な工夫を凝らして、単なる上映会にとどまらない楽しいアイディアを形にしました。

―― ふだんは団体職員として働いている中村さんが、活動に関わるきっかけは何でしたか？

国立に住み始めて数年が経ちますが、都心に勤めていて国立へは寝に帰る感じで、地域との接点があまりなかったのです。転機は、コロナ禍のリモートワーク。街歩きを始め、たまたま「くにたち映画館@アグレアブル・ミュゼ」が目にとまり映画を観ました。住宅街のギャラリーで、刺激のある社会派の映画が上映されていたことに、とても新鮮な驚きと感動があって、その場で活動に参加したいと名乗りをあげてしまいました。

―― 今回の映画祭に関わった中村さんの心に残ったことは何だったでしょうか？

担当した映画「モロッコ、彼女たちの朝」は、私が仕事で昨年モロッコへ行ったことから発案した企画でした。家父長制の根強いモロッコでの女性たちの置かれている現状を知り、ジェンダーがテーマの映画を上映したいという思いを形にすることができました。上映会では、映画をいっしょに観るだけでなく、映画に登場する美味しそうなホブスというパンを実行委員メンバーが焼き会場の皆さんに食べてもらう楽しい企画や、Jikkaの遠藤良子さん、パラソルの木山直子さんを招き日本のジェンダー不平等の課題を参加者と考えることができたのです。くにたち映画祭は、私にとって、社会問題というと敬遠しがちな人も映画を通して知ることができる場や楽しい仲間づくりができる場として欠かせないものとなっています。

くにたち映画祭実行委員会
kunicinema123@gmail.com
TEL 070-8597-1003（アグレアブル・ミュゼ）
くにたち映画祭2022
kunitachieiga

後　記
今後も映画祭に関わっていきたいと、飾らない言葉で語ってくださった中村さん。実行委員のお仲間とともにそれぞれの思いを形にする喜びや、映画祭を通して国立の街や人との繋がりが広がる嬉しさが聞くほどに伝わってきました。関わる人たちの思いが一つひとつの上映会として形になる「くにたち映画祭」。映画の地元上映だけにとどまらない大きな魅力が感じられました。

パラソルおすすめの本

消えたママ友

野原広子（著）2020年 KADOKAWA

すごい本が描かれたと思う。同じ幼稚園に子どもを通わせる仲の良いママ友仲間。ある事件をさかいに突然信頼関係が壊れはじめ、真実が分かるにつれ、それぞれ抱える闇も浮き彫りになっていく。「ママ友といるときだけ、私はママだった」「もし本当のことをいったら、みんな一緒にいてくれた？」コミックエッセイのほっこりする画風に助けられ、読み進むほどに厚みが増す。ひとの幸せとはいったい何だろう…長い余韻を残す一冊。

差別のない社会をつくるインクルーシブ教育

野口晃菜・喜多一馬（編著）
2022年 学事出版

2005年にユネスコが出したガイドラインでは「インクルーシブ教育は、多様な子どもたちがいることを前提とし、その多様な子どもたち（排除されやすい子供たちを含む）の教育を受ける権利を地域の学校で保障するために、教育システムを改革するシステム」と定義されている。マイノリティ当事者、学生、教員など多様な立場の人が語り合ってできた本書には実践のヒントがつまっている。

社会的処方：孤立という病を地域のつながりで治す方法

西智弘（編著）2020年 学芸出版社

「孤立」という社会課題に対して、地域の人との“つながり”を処方する――。こうしたアプローチを「社会的処方」と呼ぶそうです。イギリスでは制度として導入され、「リンクワーカー」と呼ばれる職種の方が患者さんにヒアリングを行い、地域資源とのマッチングをサポートしてくれます。本著ではイギリスの事例だけでなく、少しずつ日本でも増えている実践が紹介されています。まちづくりや福祉に関わる方々にぜひ読んでほしい一冊です。

今日拾った言葉たち

武田砂鉄(著) 2022年 暮らしの手帖社

2016年から今年までの様々な場面で発せられた190を超える言葉たちの本質が浮かび上がります。その中に、一橋大学アウティング事件で亡くなったAさんの妹さんの「兄の生きたかもしれない社会が、私は見てみたいです」という言葉があります。武田さんは、足りない権利を確保することを、権利の拡大と曲解する人たちもまだまだ多いと書いています。パラソルはアウティングの禁止を含む、国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例の拠点施設です。Aさんが生きたかもしれない社会の実現に向けて、一歩ずつでも前進していきたいと一層気の引き締まる思いです。

開催報告｜くにたち映画祭2022　　2022年10月30日（日）

トークイベントに登壇しました！

遠藤良子さん

映画「モロッコ、彼女たちの朝」鑑賞の後のトークイベント。1部のゲストは前号の情報誌パラソルでもご紹介した、**NPO法人くにたち夢ファームJikka・遠藤良子さん**。長年女性支援に携わっている遠藤さんの「モロッコの映画だけど、日本でも似たようなことがある。女性の問題とされていることは社会の問題」という言葉は心に響きました。2部では、私が市内各所でジェンダー研修をしていることなどをお話しし、会場の皆さんからもご意見やご感想をいただきました。市民の皆さんの声を聴くことは私たちにとって大変貴重な時間です。直接対話する時間が増えることで、何かが「じわじわ」変わっていくのではないかと思っています。市民の力で開催しているこの映画祭、私も応援していきます。　木山

モロッコを舞台に、孤独を抱える2人の女性がパンづくりを通して心を通わせていく姿を、豊かな色彩と光で描いた傑作。マリヤム・トゥザニ監督／2019年／モロッコ・フランス・ベルギー合作／101分

開催報告｜Wリボンキャンペーン2022

知ってますか？このロゴマーク

毎年11月は、**「女性に対する暴力をなくす運動」期間（11月12日～11月25日）**であり、そして**「児童虐待防止推進月間」**です。この2つの取組みを表すシンボルがパープルリボンとオレンジリボンです。パラソルでは子ども家庭支援センターと協力して「Wリボンキャンペーン」と題し、旧国立駅舎、市役所にパネル展示を開催。2022年で3回目になりました。キャンペーン期間中、駅舎は日替わりでパープルとオレンジにライトアップしました。このロゴマークと共に、ＤＶ、虐待防止への関心が高まり、被害が減ることを心から願っています。

女性への暴力根絶を願う**パープル**のライトアップ

児童虐待防止を願う**オレンジ**のライトアップ